

童

2019年11月26日。

大地の素晴らしい紅葉も終盤に入り、大地の地面は、毎日に落ち葉の絨毯が敷き詰められていきます。暖かい日が続き、紅葉の時期が長いのでしょうか。まもなく12月を迎えるというのに、朝、霜で真っ白くなり厳しい寒さがあつた日は、これまで3日間ほどでした。逆に、その氷が張ったその厳しい寒さの日は、子どもたちは氷遊びで盛り上がりました。何よりも、子どもたちは、雪遊びや寒さを楽しみにしています。これからもわかるように（セミナーでお話ししましたが）、子どもは小さな大人ではなく、子どもとして、決定的に心身共に大人とは違う人種なのですね。

紅葉と同時に、大地のガガーやベランダも秋の実り一色となりました。今年、自然農を象徴するように、お米 干し柿 大根 そば 大豆などが所狭しと吊され かざられています。おまけに、薬草棟は、米の倉庫のようになっていきました。昨日からは、ベランダからパンパンと、大豆のたたく音が聞こえてきました。新米 焼き芋 お餅 味噌汁（いよいよ大地の味噌が解禁）りんご 柿 大根 各種野菜など、週に一度は何かしら大地の秋の恵みを頂いています。

先週は、恒例のサンマ給食。青ちゃんが前日の夜からサンマ釣りに出かけるのが大地の伝統です。卒園生で中3の女の子も、そろそろ青ちゃんはサンマ釣りででかけているのかなあと、先日語っていたと聞いて、そのファンタジーに感激しました。青ちゃんの必死に釣ってきた大事なサンマだけに（プレッシャーもあったのか）、全員自力で大人の助けを求めずに、きれいに一匹のサンマを骨だけを残して食べている姿に感動しました。目の前に七輪（4台）をセットして、煙を浴びながら食べていたのですが、こんな環境は、なかなか家庭ではできない事でしょう。それ以上に、新鮮な身の柔らかいサンマのおいしさは最高でした。

一つ一つの秋の恵み 営みを、その視覚 嗅覚 味覚 聴覚 などの感覚に刻んでいって、大人になった時に、ぼんやりと時折 どこかで体験したことがあるぞ と思ってくれたらと願います。その意味で、秋は重要な季節です。



【久しぶりの青山家近況】

紅葉のもみじをバックに演じられたせんぜもん劇場。素晴らしかったですね。京都の能舞台や千利休の世界を彷彿させられるものでした。きっと、室町時代や安土桃山時代は、こんな趣で人々は豊かに自然の暮らしを楽しんでいたのでしょうか。本当に、日本の秋は、素晴らしく情緒的です。その日本の秋にびったりのせんぜもんさんの宴でした。

その宴に先立って、10月中旬に、青ちゃんの母親の米寿を祝って、実家にせんぜもんさんをお招きして、米寿のお祝いをしました。長男家族 次男家族も集まり、獅子舞や三味線そして「みんなは2番」などで盛り上がりました。夕方、大地へ移動して、青ちゃんの手打ちそばや五右衛門風呂などでの宴会。こちら、家族一品持ち寄りです。大地の定番は、青山家個人でも生かされています。

母親の米寿の誕生日と妻の9月の誕生日をお祝いしたいと、その前後に長男の家に招待されました。ご存じのように、電気やガスに頼らない暮らしの中で、パエリアをはじめ、素晴らしい心こもった料理でもてなしてくれました。暮らし自体は、たぶん88歳の母親の小さい頃と同じなので、いろいろアドバイスをもらったり、質問したり、教えてもらったりして話は盛り上がりました。

そんな、10月に、長女に恋人ができたという驚くべき吉報。もちろん、兄弟3人にはとっくに公開済みだったようですが。山小屋終了後、一緒に下山して来るという。まずは、長男宅へ泊してから青山家へやってきました。恋人は同じ山小屋グループの小屋番（山小屋の支配人ということ）であり、私たちも3回位その山小屋で泊まっているので知っていました。長女は自由奔放なので（人のアドバイスは聞かない なぜならば 私は他人の人生を生きないという名言を中学の時に残している！！）、それを暖かく見守ってくれる心の広い穏やかな人が理想だと思っていただけにびったり。長男の妻も、同じ山小屋グループで働いていたので、太鼓判を押していました。そんな自由奔放な長女だから、恋人が出来たことは、誰にでも報告し、その中でも、大好きな次男や末っ子にももちろん詳細に報告済み。兄弟の方が、親よりもいち早く情報をキャッチしているほど、いまでも兄弟の絆は深い！！

山小屋は、4月から10月いっぱいまで、年中無休で働いているので、11月から3月まではたっぷりの休日。2人は、どう過ごすのだろうかと思っていたところ、実家の2階に住みたいとのこと。実家の2階は、とても思い入れのある場所です。青ちゃんが中学生の時に作った6畳の部屋が今でも健在。そして、30歳の時に、野外教室大地を始めた発祥の部屋。今の大地と一緒に作った大工さん（母親の弟）と一緒に物置を改造して作った思い出の場所です。ここに薪ストーブを当時最先端で入れました。（35000円でホームセンターで購入した薪ストーブは、今もここで健在で十分機能を発揮しています。一時、幼稚園でも使われていました）そして、大地が完成するまで、2年間ほど青ちゃん夫婦も長男と一緒に住んでいました。

この部屋は、その後しばらく使われておらず、22年後、長男がここに住むと言って、再び水道や瞬間湯沸かし器などを入れてしばらく住んでいました。そして自然の暮らしに目覚め、今度は水道やガスや電気を外して、その後、恋人と一緒にここで住み、感謝の会（結婚式）を開き、その後野沢温泉の現在の家へ移って行きました。

入れ替わるように、山小屋で3年間ほど働き、その後保育の専門学校へ通い始めたガー君は、ここで一人暮らしを始めました。青山家の子どもたちは、これほど広い家があるのに、誰も実家に住まないで（よほど居心地が悪いのか、独立心が旺盛なのか）一人暮らしを始めます。ガー君は、実家で食べたりアルバイト先で食べたりして暮らしていたので、水道もガスも無くても、ただ寝るだけの暮らしでしたので、この部屋で大丈夫でした。そして、最後の1年間位から、この部屋に恋人が行き来するようになりました。そして、現在に至っています。

この幸せなジグザグのある部屋に、長女達が住むというので、またまた水道を復活させ、ガスや湯沸かし器をセットしました。そして、再び快適に住めるようになりました。ずっと見守っている30年来の薪ストーブは、再び力を発揮してくれるでしょう。

そして、何よりも93歳と88歳の両親が2人で暮らしているだけに、この冬場に山小屋の2人が一緒にくらしてくるだけでも安心です。

そんな時、フィリピンでの語学留学を終えて、今度はオーストラリアへ移った末っ子から連絡あり。「俺、彼女できたから」もちろん兄弟達は、すでに全て情報把握済み。彼女に会いにヨーロッパへ行くので、冬服やスーツを送ってくれと。まだ勉強中の身なのに と思いながら、皆末っ子には甘い！！

小さい頃から 共犯 そして厳しい変な親の共通被害者意識を共有した兄弟達の絆は、何時までも色あせない！！